

別添（危機管理室・会議室機器提案要件仕様書）

1 趣旨・目的

本要件仕様書は、精華町役場庁舎4階に整備する「大会議室」「中会議室」「危機管理室」に導入する映像・音響・通信機器システムについて、受注者が満たすべき要求機能及び運用要件を定めるものである。

本業務では、特定メーカー・品番の指定は行わず、受注者の専門的知見を活かした自由提案方式とする。受注者は、本仕様書に掲げる平時・有事の運用イメージ及び町が参考として提示する機器構成案（最低限の要望ライン）を踏まえ、最新技術、信頼性、操作性、コストパフォーマンス、将来拡張性を総合的に考慮した最適なシステム（AVセレクター、スイッチャー、ミキサー、配線計画等を含む）を提案・構築すること。

2 対象エリア及び物理的条件

(1) 対象エリア：大会議室、中会議室、危機管理室

(2) 物理的条件：上記3室は、「稼働間仕切り（パーテーション）」により区画された構造である。

・平時（通常時）

間仕切りを閉鎖し、3室を独立した会議室として個別運用する。

・有事（災害発生時等）

間仕切りを全て解放し、3室を連結した一体空間「精華町災害対策本部」として運用する。

受注者は、この「平時は独立運用／有事は一体運用」という前提を踏まえ、空間構造に依存しない柔軟な映像・音響・通信システムを設計すること。

3 共通システム要件

(1) 映像接続・切替の円滑性及び安定性

ア 映像信号の伝送方式（有線・無線）は限定しないが、災害時の緊迫した状況下においても、映像・音声の途絶、遅延、ノイズ等が発生しない高い安定性を確保すること。

イ 複数PC・端末からの入力切替は、専門知識のない職員でも直感的に操作できるシンプルかつ誤操作の起きにくい制御システムとすること。

ウ 有線接続端子（HDMI等）は、各室の利用形態に応じて適切な位置に配置し、ケーブル長・配線経路等を含めて安全性と操作性を確保すること。

(2) 発注者（町）提供モニター（計3台）のシステム組込み

ア 発注者（町）が支給するモニター3台を、受注者が構築するシステムに適切に組込み、他機器と連携できるよう設計すること。

(3) 新規55インチテレビモニター（3台）のテレビ受信

ア 新規調達する55インチモニター3台は、有事にニュース放映を即時視聴できる構成とすること。

イ 必要に応じてアンテナ・分配器等を含む受信環境を整備すること。

(4) 参考機器構成案の扱い

ア 町が提示する機器構成案は参考（最低限の要望ライン）であり、受注者はこれに拘束されない。

イ 要求機能を満たす範囲で、より優れた構成があれば代替提案を行ってよい。

代替提案を行う場合は、提案理由、メリット、デメリット等を明確に示すこと。

4 運用モード別の要求機能要件

(1) 平時（分割運用モード）の要件

稼働間仕切りを閉鎖し、3室を独立した会議室として運用する際の要件とする。

ア 本業務で調達するマイク・スピーカーシステム（卓上式ワイヤレスマイク、ポータブルPAシステム等）は、平時は大会議室に常設し、大会議室単体での拡声運用を行うこと。

イ 中会議室及び危機管理室には、平時用の個別マイクシステムは常設しない。

【音響・映像の独立性】

ア 大会議室でワイヤレスマイクを使用している場合でも、隣室（中会議室・危機管理室）のスピーカーから音漏れが生じないように、適切な音響ゾーニングを行うこと。

イ ワイヤレスマイクの電波干渉が発生しないよう、周波数管理・チャンネル設計を適切に行うこと。

ウ 各室の映像出力は、完全に独立して制御可能であること。

(2) 有事（一体化運用モード：災害対策本部）の要件

稼働間仕切りを解放し、3室を連結して「精華町災害対策本部」として運用する際の要件とする。

【マイク・スピーカーシステムの移動運用及び全体拡張】

ア 大会議室に常設するマイク・スピーカーシステムは、有事には3室連結空間内で容易に移動・再配置して運用できる構成とすること。

イ 3室を連結した大空間においても、遅延なく明瞭な音声が行き渡る出力・電波カバー範囲・拡張性を備えること。

ウ 必要に応じて、音響ルーティング・ミキシング制御を行える環境を構築すること。

【マルチ映像切替・分配表示】

災害対策本部として、以下の映像出力先（計8系統以上）に対し、複数の映像ソース

を個別または一斉に分配・同期表示できるシステムを構築すること。

(必須の映像出力先)

- ・危機管理室：単焦点プロジェクター 1台
- ・85インチ以上の大画面モニター 4台
- ・発注者（町）提供モニター 3台

(表示可能な映像ソース（例）)

- ・PC画面（複数）
- ・新規55インチテレビモニターで受信するニュース映像
- ・WEBカメラ映像
- ・その他、災害対策本部で必要となる映像信号

【要件】

- ・高機能マトリックススイッチャー等を用い、任意の映像を任意の出力先へ即時切替・分配できること。
- ・室内のどこからでも同一の災害情報を視認できる環境を構築すること。

5 操作性（モード切替）に関する要件

【職員による簡易操作】

- ・音響、映像の専門知識を持たない職員でも、平時（分割運用モード）から有事（一体化運用モード）への切替を迅速に行えること。
- ・壁面タッチパネル、物理AVセレクター等を用い、ワンタッチまたは極めて簡易な操作でモード切替が可能な制御システムとすること。
- ・切替時に誤操作が発生しないよう、UIの視認性・操作動線の明確化を図ること。